

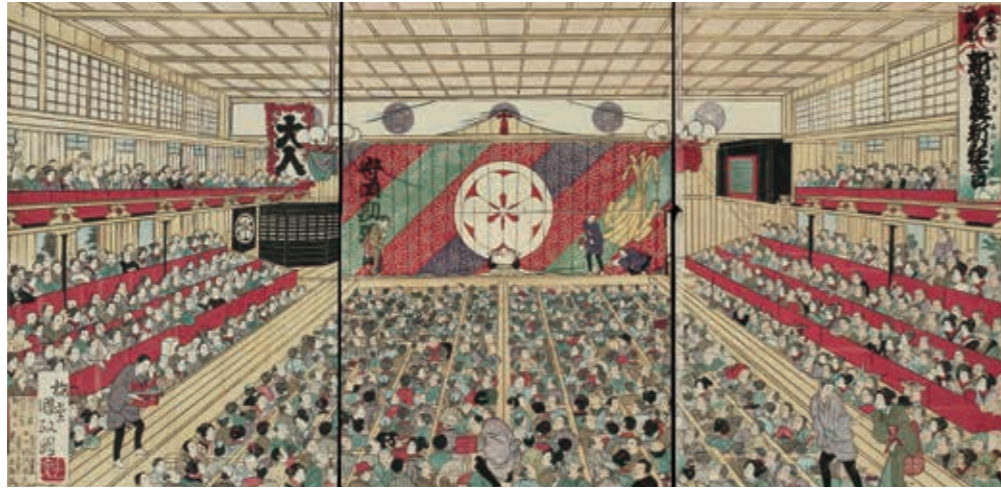
明治の芸能

江戸時代後期の芝居小屋は浅草に制限されていたが、明治になると自由に移転することが許された。1872(明治5)年、守田座が新富町に移転開業した。すると、中央区内に次々と劇場が生まれ、演劇の中心地となった。



守田座全景
新富町に移転開業した当時のようすを伝える錦絵。

新富座の内部
ガス灯やいす席などの近代的な設備を取り入れた。これは、1875(明治8)年に名前が新富座となったあとの劇場の内部をえがいたもの。



歌舞伎はなくなっていたかもしれない？

明治政府の文明開化政策にそって、これまでの歌舞伎を改良しようという運動が起こった。市川團十郎の改革は、伝統を越えようとしたが、なかなか認められなかった。しかし、この動きがしげきとなって、歌舞伎は単なる娯楽から、世界にほこれる日本の芸能として守られることになり、伝統芸能になった。

改革が順調に進んでいたら、今のような歌舞伎は残っていなかったかもしれないわね！

9代目市川團十郎(1838~1903)
歌舞伎役者。初代市川左團次、5代目尾上菊五郎とともに、明治の三名優といわれた。歌舞伎の近代化をはかる一方で、伝統的な荒事の演技を整理して、現在まで残る形をつくった。

94 新富座は、1923(大正12)年に起こった関東大震災によって焼失してしまった。その後は、再建されなかった。



中央区の劇場を
中心に、
明治の芸能を
見てみよう！

<演劇界が 変わりはじめた>

新富町に移った守田座は、移転から3年後の1875(明治8)年に名前を新富座に改めた。文明開化(→p.76)の新しい時代に合わせて近代的な設備を取り入れ、劇場と演劇の改革をした。明治維新の影響は演劇界にもおよんだ。

明治座が誕生した

1893(明治26)年、明治の三名優の1人である初代市川左團次が、1890(明治23)年に消失した千歳座という劇場を再建して、明治座が生まれた。それまでの明治座の歴史は災難続きで、座名を久松座とっていた時代には、火災が燃え移って焼失したり、暴風雨で屋根を吹き飛ばされたりした。何度も起こる災害で建築費用がかさみ、借金にも悩まされたが、新たな出資者や支援者にも恵まれた。

明治座は、140年の歴史と伝統をもち、現在でも中央区を代表する劇場の1つだ(→p.160)。

初代市川左團次によって再建され、新築された明治座。



演劇界を導く歌舞伎座が生まれた

1889(明治22)年、福地桜痴(→p.81)が演劇改良の場として開場した。守田座や新富座などのように、座元の名前や地名をつけるのがふつうの時代に、演劇の種類そのものを劇場名にするのはとても新しいことだった。照明器具に電灯を使用するなど、近代劇場として開設された。



電灯照明
ガス灯などの明かりに比べて、電灯は劇場全体を明るく照らし、俳優の演技や演出にも変化を与えていった。歌舞伎座は演劇界をリードする存在となっていた。

芝居が政治活動に 利用された

明治前期、明治政府に反対して、国民の自由と権利を要求した自由民権運動が広がり、この思想を広めるために芝居が利用された。俳優の川上音二郎が演じたオッペケペー節は全国的に流行した。



オッペケペー節
流行歌の1つで、政治や世相を皮肉って歌った。

筋書き
芝居のストーリーを紹介したもの。口絵には役者の似顔を用いて、舞台の見せ場をえがいた。

歌舞伎座引札
引札とは江戸時代からつかわれていた広告チラシ。歌舞伎引札には演目の順番などが書かれていて、予定表の役割をはたした。



大衆は寄席に集まった

歌舞伎は1日ばかりで出かけるイベントで、大衆には手が届かないものだった。人々の身近な娯楽は、歩いていける範囲にある寄席だった。1906(明治39)年、区内には約20の寄席があった。

寄席と娘義太夫
寄席は各地に点在していて、気軽に落語や義太夫などが聞けた。娘義太夫は女性が語る義太夫で、明治後半には美しい容姿と美しい声の娘義太夫が現れ、人気を集めた。



義太夫は、曲に合わせて物語を語る演芸なのね。

寄席では落語も人気だったよ。

95 中央区には、現在、歌舞伎座、明治座、新橋演舞場の三大劇場のほか、三越劇場、博品館劇場などがある。